

調査研究 2

インターンシップ修了生に関するアンケート調査

インターンシップ修了生に関するアンケート調査

研究代表者：河村 律子（立命館大学国際関係学部 教授）

共同研究者：古川 秀夫（龍谷大学国際学部 教授）

多田 実（同志社大学政策学部 教授）

三浦 潔（京都文教大学総合社会学部 教授）

渡邊 博己（京都学園大学法学部 教授）

筑田 一毅（大谷大学・大谷大学短期大学部 学生支援部キャリアセンター）

広瀬 友子（京都学園大学キャリアサポートセンター課長代理）

久保 歩（立命館大学共通教育課(衣笠)インターンシップオフィス）

森野 裕之（京都文教大学学生部キャリアサポート課係長）

研究協力部署：大学コンソーシアム京都 高大連携・インターンシップ事業部

1. 研究概要

(1) 背景

大学コンソーシアム京都（以下、本財団）のインターンシップ・プログラムは 1998 年より実施し、いくつかのコース設定をたどって、2004 年に現在の、ビジネスコース、パブリックコース、プログレスコースの 3 コース制となった。毎年、実習生は 400～600 名規模、実習先は 200 箇所以上、本財団加盟校の教員が 30～40 名がコーディネータを務めている。

この間、受講生に対しては、プログラム終了時に実習の満足度や学習や仕事に対する意識の調査を実施しており、毎年報告書を出してきた。一方、修了生に対しては 2007 年度に調査を実施し、インターンシップの長期的效果が測定されたⁱ。

現在、2007 年度に修了生調査を実施した時に比べて、加盟校独自のインターンシップや短期・公募型インターンシップが増加している。そのため、あらためて本財団のインターンシップの独自性を明らかにする追跡調査を実施することとした。

(2) 調査目的と内容

本財団のインターンシップ・プログラムに参加した過年度の修了生において、インターンシップ経験が大学生活および卒業後のキャリア形成にどのような影響を与えたかを明らかにし、それによってインターンシップの教育効果を明らかにする。そのために、大学卒業・大学院修了後の進路、その進路とインターンシップ先との関連、大学生活での成長度合いと成長にかかわった要素、インターンシップ経験のその後の大学生活への影響、インターンシップ経験の就職活動への影響を調査する。単にインターンシップの大学生活や就職活動への影響を測定するのではなく、学生の大学生活における成長度を測り、インターンシップが効果を発揮する教育的側面を見出すこととする。また、前回調査との比較も行う。

同時に、今後も本財団からの案内物を受け取るかどうかの意向を調査し、了承の場合は氏名と連絡先の記入を求める。これは、アドバイザー的役割を果たす OB/OG を開拓し、社会人となった修了生の目から本プログラムの精緻化に貢献してもらう目的を持っている。ただし、この意向調査は本体調査とは別紙で行い、本体部分の匿名性を担保した。

(3) 調査実施

調査対象：2004 年度から 2012 年度に本財団インターンシップ・プログラムのビジネスコース、パブリックコース、プログレスコースを修了し、実家の住所が判明する者（送付数 2,702 名、有効数 2,421 名）

実施期間：2015 年 8 月 7 日（金）～10 月 13 日（火）

実施方法：インターンシップ応募時点での実家住所に郵送し、郵便により回収

回収数：373 名（回収率 15.4%）

有効回答数：371 名（有効回答率 15.3%）

今後の案内物受け取り了承者：124 名（郵送・メール可 50 名、郵送のみ可 56 名、メールのみ可 18 名）

具体的な調査項目：

①個人属性

性別、年齢、実習時の大学・学部・学科・入学年度、現在の職業

②インターンシップ参加状況

実習先、参加コース

③就職との関連性、転職状況

就職活動経験、実習先と就職活動対象・内定先・就職先の関連性、転職状況

④大学生活における成長

成長の度合いと成長に影響した経験

⑤プログラムの影響

大学生活への影響、就職活動への影響、現在の生活への影響

⑥自由記述

在学生へのアドバイス、インターンシップへの意見・感想

2. 研究のオリジナリティ

本研究はプログラムを修了し、すでに社会人となっている者を対象としている。インターンシップ修了直後の調査は多数行われているが、こうした追跡調査は調査対象者の特定や回収困難性から、ほとんど行われていない。インターンシップの真の効果を測るためにには修了生のその後の大学生活と社会人生活を対象とする必要があり、この研究はその数少ない例である。

本プログラムが大学 4 年間のうちのごく短い期間の、大学外部の機関によるものであるにもかかわらず、アンケートに一定の回答を得られること自体が、本プログラムの優位性を示しているといえる。

3. 研究内容

調査結果とその特徴を以下に述べる。

(1) 個人属性

有効回答のあった 371 名の性別は、男性 94 名（25%）、女性 277 名（75%）で、プログラム全体の受講生の男女分布（おおむね男性 33%、女性 67%）よりやや女性が多い。回答者の年齢は 22 歳から 36 歳まで、また入学年度も 2002 年から 2011 年と、過去 8 年間のプログラムの広範囲にわたる修了者から回答を得た。

現在の身分は、正社員が 234 名（63%）ともっとも多く、公務員の 58 名（16%）がこれに続く。前回と同様に一般的な職業分布よりも公務員の比率が高いが、これは本プログラムがビジネスコースとパブリックコースを並行して実施し、公務分野志望者への訴求力があることの表れであろう。これに自営業の 5 名を含めた合計 297 名（80%）が安定的な職業に就いている。それに對して、大学院生などの学生 16 名（4%）、契約社員 19 名（5%）、派遣・アルバイト・フリーター 17 名（5%）、求職中 6 名（2%）など、合計 74 名（20%）が安定的な職業に就いていない。

プログラム参加時の在籍大学は、龍谷大学（73 名）と同志社大学（70 名）が合わせて 38% を占め、京都女子大学、同志社女子大学、大谷大学、立命館大学、京都産業大学がそれぞれ 4~8% である。前回調査に比べて立命館大学と京都産業大学が減っているが、これはこの 8 年間のプログラムの受講生分布の変化を反映している。少數ではあるが、大阪府や奈良県の本財団加盟校以外の大学卒業生から回答があった。これらの大学を含む 31 大学、2 短期大学、4 大学院の出身者から回答があった。

在学学部は多岐にわたるが、文学部 60 名、社会・現代社会学部 54 名、経済・経営・商学部 44 名、法学部 30 名など、ほとんど文社系学部である。

以上、性別、年齢、入学年度、出身大学・学部から見て、調査回答者の分布は性別にやや偏りがあるとはいえる過年度のプログラム全体の実習生の分布をほぼ反映しており、調査結果の有効性が担保されているといえる。

(2) インターンシップ参加状況

今回の調査対象者がインターンシップを受講した期間においては、どの年度もビジネスコース、パブリックコース、プログレスコースの 3 コースが提供されていた。回答者の受講コースは表 III-1 の通りである。なお、コースを「覚えていない」、あるいは、実習先から明らかな誤りと思われる回答が相当数あったので、修正を加えている。例えばパブリックコースで実習先が具体的な小中学校名を記入している場合に、プログレスコースで実習先を教育委員会とする、などである。9 年間のプログラムにおける各コース受講者の割合は、ビジネス 70%、パブリック 16%、プログレス 14% であり、回答者分布はこれにはほぼ等しくなっている。

2004 年度にそれまでの企画型プログラムを引き継ぐ形でプログレスコースが本格的に始まっており、今回はその修了生の回答も 55 名と多く得られた。今回の調査はプログレスコースの長期的な成果をはじめて明らかにできるものである。

表III-1 インターンシップの受講コース

コース	回答者数	割合
ビジネスコース（企業等において約2週間程度の実習を行うコース）	249	67.1%
パブリックコース（行政機関、NPO等において約2週間程度の実習を行うコース）	62	16.7%
プロジェクトコース（プロジェクトの企画・計画から実施までの実習を行うプロジェクト型コース）	55	14.8%
不明	5	1.3%
合計	371	100.0%

(3) 就職との関連性、転職状況

回答者のうち351名(95%)が就職活動の経験があると回答した。経験がある者に対して就職活動先および内定先の業種とインターンシップ実習先業種との関連を尋ねた結果が表III-2である。

就職活動においては、もともと興味ある業種の実習先を学生が選んでいる傾向があり、その結果として実習先と同じ業種において就職活動を行った者も96名(26%)いるが、むしろ実習先と異なる業種や様々な業種において就職活動を行った者のほうが多い。ただし、「インターンシップ先とは異なる業種」との回答が「インターンシップ先と同業種における就職活動をしていない」とは必ずしも言えず、また、「業種は様々」との回答者の相当数がインターンシップ先と同業種においても就職活動を行ったと思われる所以、インターンシップ先と同業種を活動に含めていた者が7割程度はいるのではないかと思われる。

内定先においても同様で、実習先と同じ業種において内定を得たとの回答者は97名(26%)であるが、業種は様々との回答者が67名(19%)であることから、実際には実習先と同業種で内定を得た者は5割近くあるのではないかと思われる。

表III-2 就職活動・内定先と実習先業種の関連（就職活動を行った者のみ）

	就職活動		内定先	
	回答者数	割合	回答者数	割合
インターンシップ先を含めた同業種	74	21.1%	63	17.9%
インターンシップ先は除いた同業種	22	6.3%	32	9.1%
インターンシップ先とは異なる業種	102	29.1%	178	50.7%
業種は様々	150	42.7%	67	19.1%
不明	3	0.9%	11	3.1%
合計	351	100.0%	351	100.0%

大学・大学院卒業直後の進路は、すぐに就職した者が323名(87%)、直後ではないが就職した者が15名(4%、うち11名は1年以内)となっている。これら338名の最初の就職先と志望先との関係を見ると、131名(37%)が第1志望に、112名(32%)が第1志望と同一の業種または職種に就職している。また、最初の就職先での身分は292名(83%)が正社員である。これらは、比較するデータがないので断定はできないが、かなり高い割合であるといえよう。

転職経験は、88名(25%)がありと答えており、就職から転職までの期間は1か月から6年と非常に幅があるが、53名(15%)が3年以内である。転職の理由としては、体調不良や長時間勤務といったマイナス要素をあげる者が24名と多いが、キャリアアップ・ステップアップや希望

職種への転職といった自己向上をあげる者も 14 名と多い。よく言われる「3 年で 3 分の 1 が辞める」よりははるかに転職率が低く、また積極的転職が一定数あることを特徴としてあげることができよう。

(4) 大学生活における成長

ここから、調査の目的である大学生活における成長などの質問項目に沿って記述する。

問 13. 大学生活の間で下記の項目を伸ばすことが出来ましたか。さらに、「よく伸びた」または「少し伸びた」を選んだ方は、伸びすぐにあたって最も影響した経験をひとつ、そのほかに影響した経験をいくつでもリストから選んでください。

1) 成長度の全体傾向

今回の調査におけるひとつの主眼は、インターンシップ受講生の大学生活における成長を様々な角度から測ること、そしてその成長に影響を与えたものを知ることで、インターンシップが学生の成長にどのように関わっているのかを明らかにすることである。そのため、大学生が在学中に伸ばすことを期待される能力として社会人基礎力などを参考にして 16 項目設定し、それぞれの成長度を尋ねた。さらに、成長に影響を与える経験として 7 種類を考え、それぞれの成長に影響を与えた経験を答えてもらった。

図III-1 はこの結果である。「よく伸びた」と「少し伸びた」との回答の合計（以下「伸びた」と記す）の多い順に項目を並べ替えている。また、無回答は省いている。

16 項目の能力のうち、自主性、コミュニケーション力、協調性、実行力の 4 項目は「伸びた」が 75%~85% と極めて高い。次に、学習に対する意欲、基礎学力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力、人的ネットワーク構築力、課題発見力の 6 項目において約 70% が「伸びた」としている。これらも相当高いといえる。これらに対して、リーダーシップ、独創性、発信力、規律性の 4 項目は「伸びた」が 50% を切っており、回答者の評価は比較的低い。

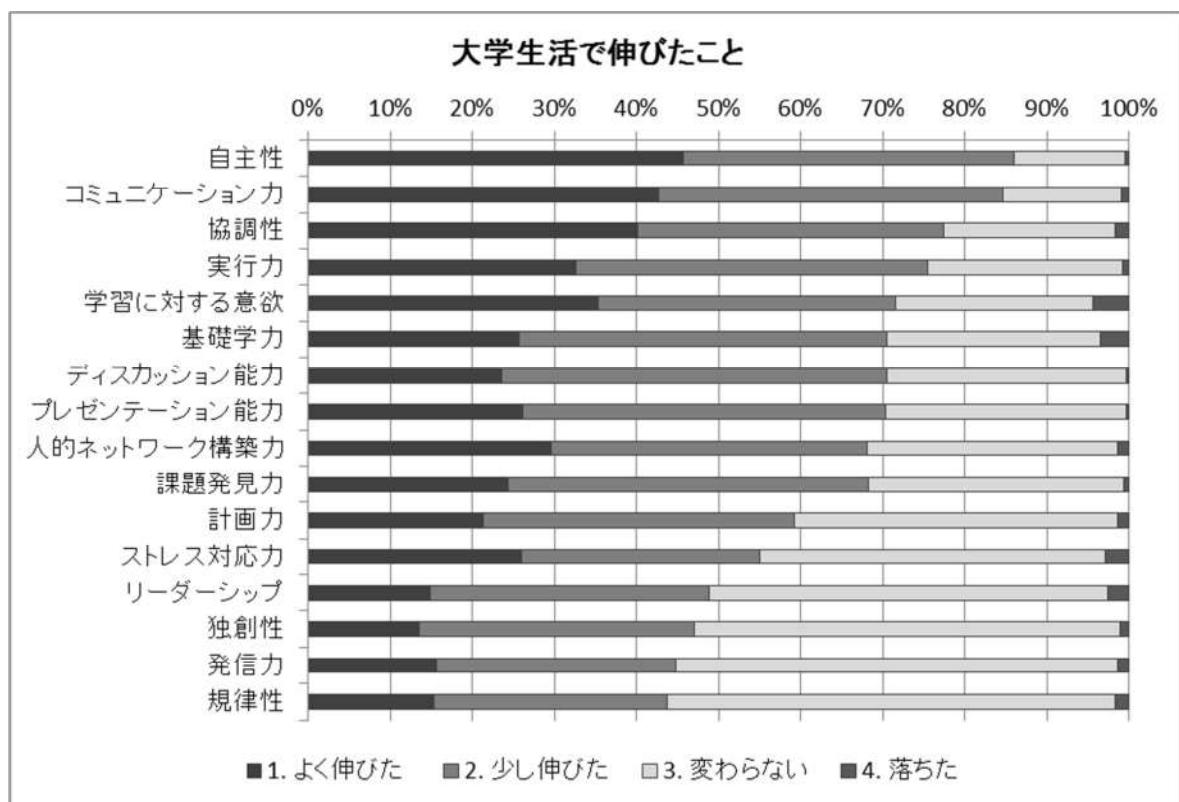
これらの結果を経済産業省の提示する「社会人基礎力」の観点から考察する。社会人基礎力とは、教育によって得られる「基礎学力」や「専門知識」を活かすために必要とされる力で、「前に踏み出す力（アクション）」、「チームで働く力（チームワーク）」、「考え方（シンキング）」の 3 要素からなっている。

調査での 16 項目のうち、基礎学力、学習に対する意欲、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を、基本的な能力として「基礎学力」に該当するものとした。これらはいずれも「伸びた」者が約 70% であり、大学における基本的な教育効果が出ているといえる。

社会人基礎力のうち、まず「前に踏み出す力（アクション）」は、主体性、働きかけ力、実行力の 3 点が含まれている。アンケート項目における自主性は主体性に、また、人的ネットワーク構築力は「他人に働きかけ巻き込む力」である働きかけ力に相当するとみることができる。したがって、「前に踏み出す力（アクション）」に対応するアンケート項目を、自主性、人的ネットワーク構築力、実行力とすると、これらはいずれも在学中の成長度が高いと評価されている。このことは、回答者の多くが社会人基礎力の一つの大きな要素である「前に踏み出す力」を得たことを意味する。

次に「チームで働く力（チームワーク）」は、発信力、規律性、ストレスコントロール力などの6点からなっている。アンケートではこの3点にコミュニケーション力と協調性、リーダーシップを加えた。この6項目のうちコミュニケーション力と協調性は非常に大きく成長したと評価されているが、その他の4点は評価が低い。チームで働く力は部分的に獲得したといえる。

最後に「考え方（シンキング）」は、課題発見力、計画力、創造力の3点からなっている。創造力は独創性に置き換えられるので、アンケート項目の課題発見力、計画力、独創性が考え方抜く力に相当する。これら3項目は成長度が比較的低いものである。



図III-1 大学生活で伸びたこと

以上から、回答者は大学生活において、基礎学力の向上を担保したうえで、社会人基礎力の観点における「前に踏み出す力」を最も得ており、「チームで働く力」と「考え方抜く力」はやや成長度が低いといえる。

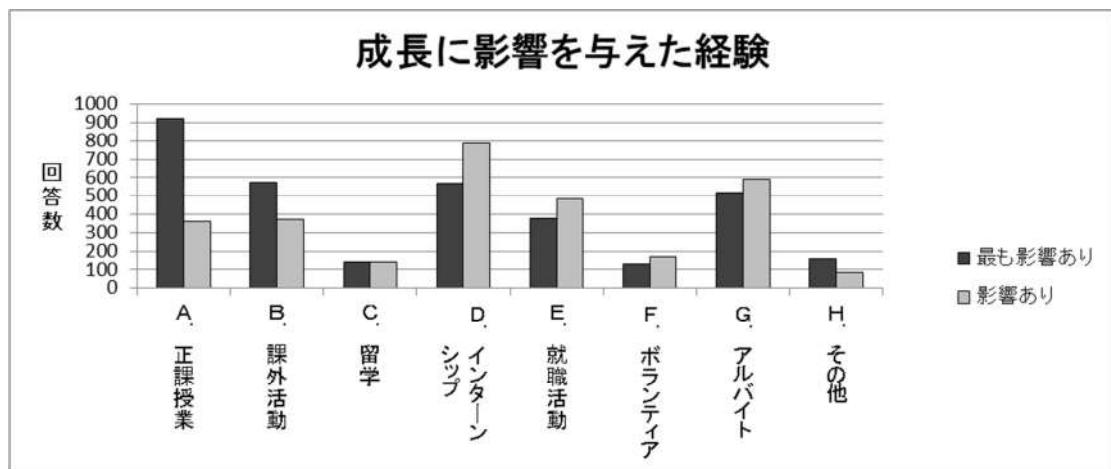
2) 成長に影響を与えた経験

次に、これらの力それぞれにおいて、「よく伸びた」あるいは「少し伸びた」との回答者に、その成長にどのような経験が影響したかを尋ねた。想定したのは、学生生活で大きな比重を占める正課授業のほかに、部活やサークルなどの課外活動、留学、就職活動、ボランティア、アルバイト、そしてインターンシップである。これらの経験のうちから、最も影響したものを一つと、その以外に影響した経験を複数回答で挙げてもらった。

図III-2は、正課授業等の経験ごとに、図III-1の16項目の力それぞれにおいて「最も影響した経験」あるいは「それ以外に影響した経験」として選ばれた回答数の合計を示したものである。

これを見ると、16 項目の合計として「最も影響した経験」は正課授業が 920 回答と他を圧倒して多く、これに課外活動、インターンシップ、アルバイトが続く。これに対して、「それ以外に影響した経験」はインターンシップが 785 回答と多く、アルバイトがこれに続く。その結果、この両者を合わせる、つまり影響した経験全体としては、インターンシップが 1353 回答、正課授業が 1278 回答と、インターンシップの経験が最も多かった。

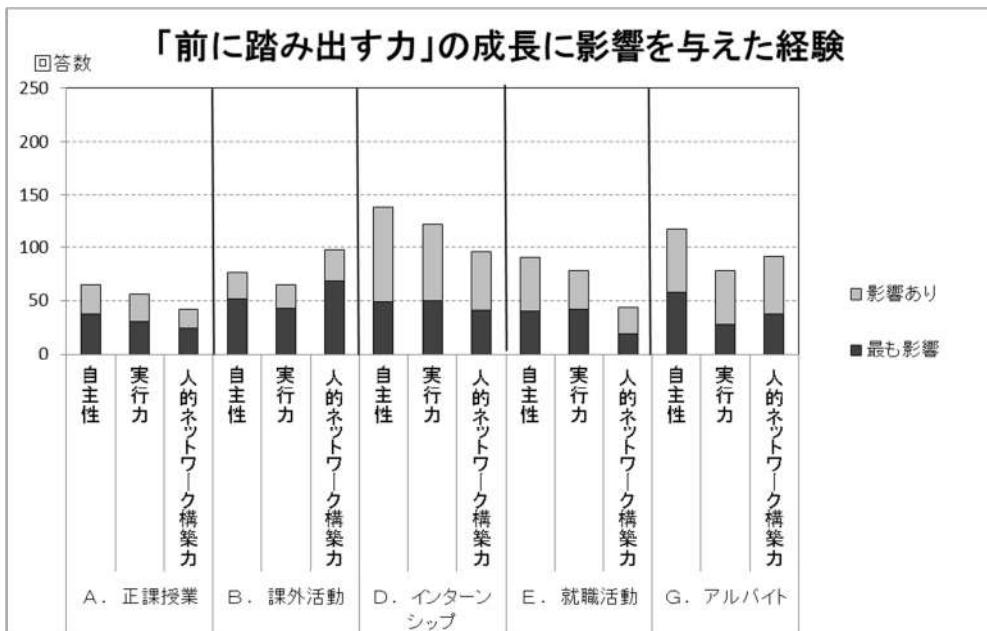
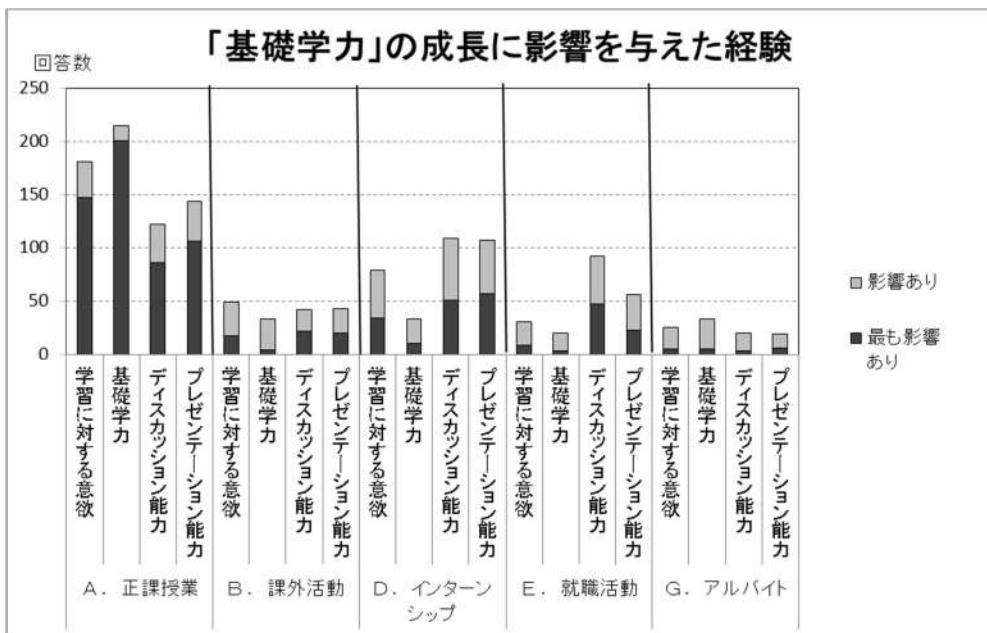
留学とボランティアは、影響した経験全体でも 300 回答を切った。今回は留学やボランティア経験の有無は質問していないが、おそらく、留学やボランティア活動は経験者自体が少なく、そのため回答が少なかったのであろう。

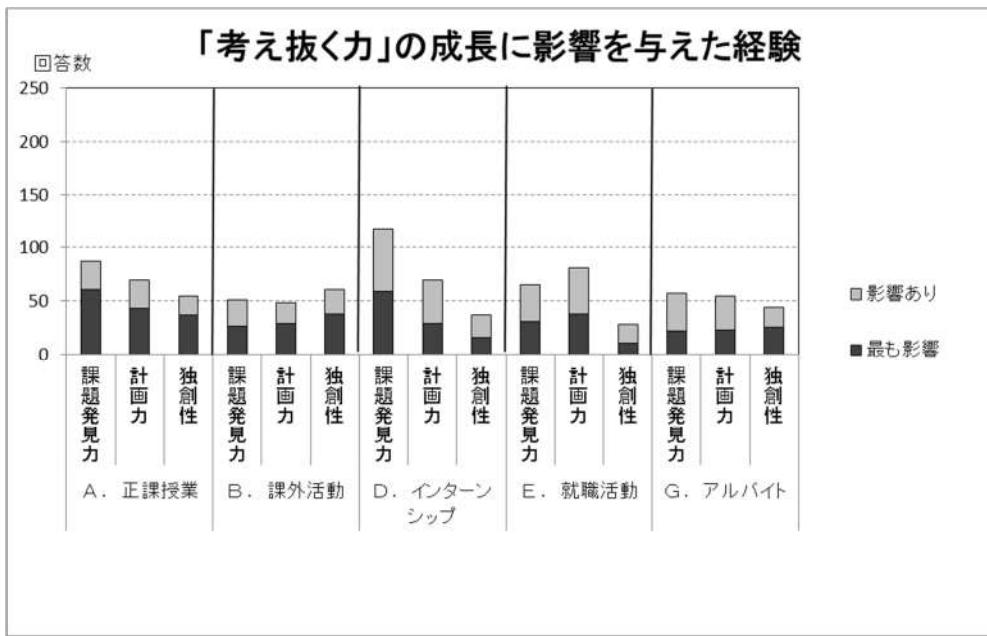
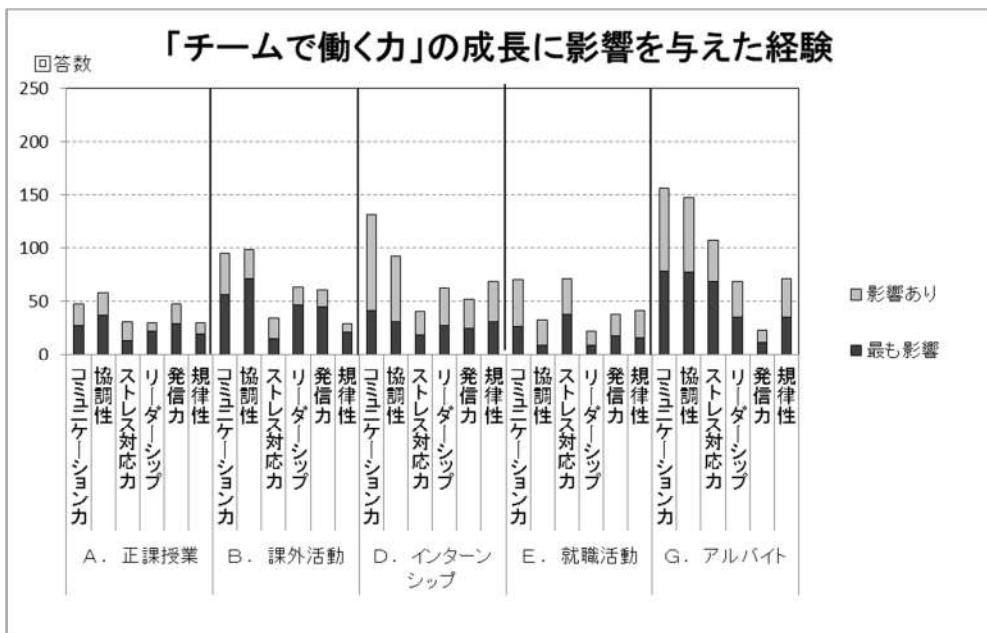


図III-2 大学生活で伸びたことに影響を与えた経験

影響した経験全体で回答の多かった、正課授業、課外活動、インターンシップ、就職活動、アルバイト、の 5 種類の経験について、上記 16 項目のどのような力においてその経験が影響を与えたのかを、前の分析と同様に社会人基礎力の観点別に整理して詳しく見てみる。図III-3 では、「最も影響を与えた経験」と「それ以外に影響した経験」を積み上げて示している。グラフ間の比較がしやすいように回答数の軸を同一にしているが、グラフによって該当項目数が異なるために、棒の太さが異なることを断っておく。

まず、「基礎学力」に該当する 4 項目においては、正課授業が最も多く影響を与えている。これはある意味、当然のことである。もしここに正課授業が影響を与えていないとしたら、それは大学教育の本質的な役割を果たしていないことになる。その一方で、ディスカッション能力とプレゼンテーション能力において、インターンシップが正課授業とそれほど変わらない回答数を得ていることは注目に値する。つまり、インターンシップ経験が、正課授業に次いで基礎的な学力形成にも影響を与えているのであり、本財団の教育プログラムとしての性格が実証されているということができる。





図III-3 大学生活で伸びたことに影響を与えた経験（詳細）

次に、「前に踏み出す力」に関する項目である。前述のように、これは成長の度合いの高いものである。この成長に影響した経験として挙げられたのはインターンシップが最も多く、アルバイトがこれに次ぐ。インターカレッジで行われる本プログラムに参加すること自体が自主性と実行力の前進を伴うものであり、さらに、インターンシップ実習においては、与えられた仕事をこなすだけでなく、自ら進んで仕事を見つけて実行に移していくこと、また、そうした一連の過程を進めるうえで人的なネットワークを構築することが要求され、その力をつけていったと考えられる。

「チームで働く力」においては、アルバイトの影響が大きい。とくにコミュニケーション力と協調性に影響を与えていている。インターンシップもこの2項目に対してある程度の影響を与えてい

るが、アルバイトよりはかなり少ない。しかし、多くの学生がアルバイトをほぼ4年間継続して行っているのに対して、インターンシップが数週間、プログレスコースでも半年間でしかないことを考えると、インターンシップの影響力もかなり大きなものであることが示されている。

最後の「考え方」は成長度合いの低いものであり、したがって、影響を与えた経験も全体として回答が少ない。その中で、インターンシップが課題発見力に影響を与えているのが目立っている。実習において課題を発見することの必要性を認識しそれを実践した経験が活きているのだと思われる。

以上のように、インターンシップは基礎学力への影響力を持つという面で正課授業に似た側面を持つ一方で、社会人基礎力のとくに「前に踏み出す力」への影響力が強く、正課授業とは異なる側面を併せ持つ。「前に踏み出す力」への影響力ではアルバイトと似ているが、インターンシップの期間を考えれば影響力は相当強い。つまり、本プログラムが教育プログラムとして有効性を持つことが示されたといえる。

3) コース間比較

最初に述べたように、今回の調査は本インターンシップ・プログラムがビジネスコース、パブリックコース、プログレスコースの安定した3コースとなってから初めての追跡調査である。したがって、コース間を比較すること、とくにプログレスコースの成果を検証することが初めて可能となった。

表III-3に示すのは、ここまで述べた16項目についての大学生活における成長を3コース間で比較検定した結果である。分散分析は3コース全体においてコース間の差が認められるかどうかを示し、T検定は2コース間の差の有無を3つの組み合わせそれぞれにおいて示している。

これによると、コース間で有意な差がみられるのは「学習に対する意欲」と「リーダーシップ」のみであり、他の14項目においては有意な差はみられない。この質問は大学生活全体を通しての成長を問うたものであるからコースによる違いはストレートには表れないであろう。

なお、これ以降の問い合わせにおけるコース間比較も同様の方法で行うこととする。

表III-3 大学生活における成長（問13）に関するコース間比較検定

	平均値				分散分析	T検定		
	ビジネス コース	パブリッ クコース	プログレ スコース	全体		ビジネス ・パブリッ ク	ビジネス ・プログ レス	パブリッ ク・プログ レス
自主性	1.70	1.75	1.57	1.69				
Communication力	1.74	1.74	1.75	1.74				
協調性	1.84	1.88	1.82	1.84				
実行力	1.94	1.87	1.98	1.93				
学習に対する意欲	2.07	1.72	1.80	1.97	**	*	*	
基礎学力	2.09	1.95	2.14	2.07				
Discussion能力	2.07	2.06	2.04	2.06				
プレゼン能力	2.07	1.94	2.06	2.04				
人的NW構築力	1.99	2.20	2.04	2.03				
課題発見力	2.14	1.94	1.94	2.07				
計画力	2.23	2.26	2.10	2.21				

ストレス対応力	2.25	2.07	2.22	2.22				
リーダーシップ	2.39	2.51	2.23	2.39				*
独創性	2.37	2.53	2.45	2.41				
発信力	2.38	2.52	2.43	2.41				
規律性	2.44	2.46	2.31	2.42				

注) 平均値は、よく伸びた=1、伸びた=2、変わらない=3、落ちた=4とした平均値を示す。

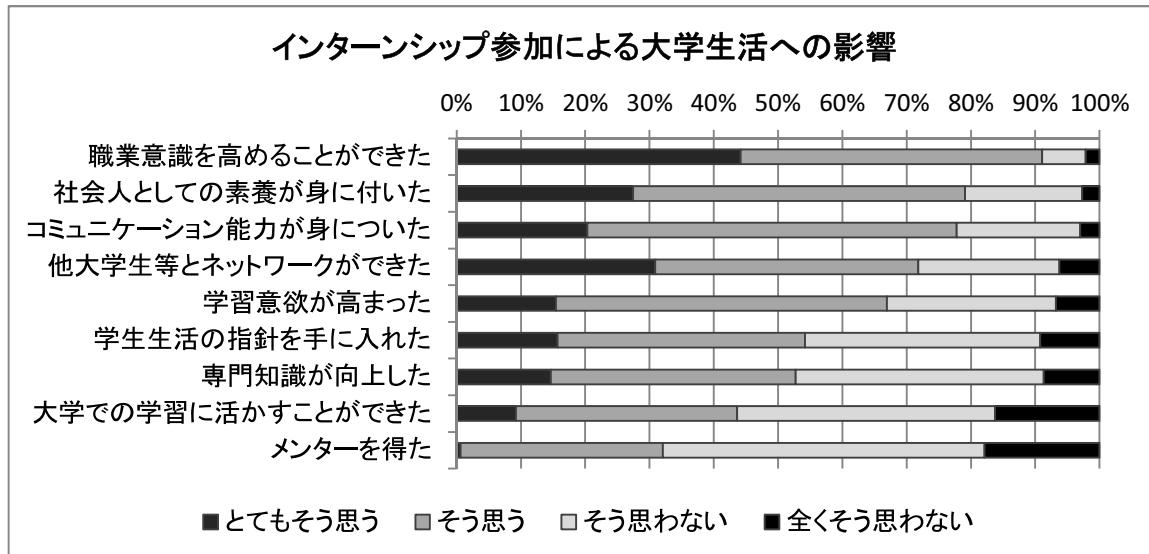
**は1%、*は5%で有意を示す。

(5) プログラムの大学生活への影響

問14. インターンシップの参加によって、その後の大学生活にどのような影響がありましたか。
以下の項目のそれぞれについて答えてください。

1) 影響の全体的傾向

大学生活全般での成長を尋ねた問13に対して、問14はインターンシップ参加の影響を直接的に問うた。図III-4は「とてもそう思う」と「そう思う」の合計の多い項目の順番に並べたものである。これに示すように、回答者の91%が「職業意識を高めることができた」と、約80%が「社会人としての素養が身についた」、「コミュニケーション能力が身についた」と感じている。これらは社会人性と呼べるものであり、キャリア教育における獲得目標となるものである。現在、各大学の正課においてキャリア教育が充実しつつあるが、本プログラムもそうしたキャリア教育と同様の実績をあげていることが示されている。



図III-4 インターンシップ参加による大学生活への影響

インターカレッジとしての本プログラムの特徴がでているのが「他大学生等とネットワークができる」に対して「とてもそう思う」が31%、「そう思う」とする者を合わせると70%を超えることである。このネットワークをどのように活かしたかは後の自由記述の分析に譲るが、ネットワーク構築の非常に有効な機会を本プログラムが提供しているのは間違いない。

「学習意欲が高まった」が68%であること、「大学生活の指針を手に入れた」が54%であることは一定の評価ができる。しかし、本プログラムが教育プログラムとして大学での主体的学習の

意欲と態度の涵養を目標として掲げていることからすると、これらがより高い水準で受講生の実感として受け入れられるように目指す必要があるともいえる。

2) コース間比較

問13と同様に、コース間比較を行った。その結果を表III-4に示す。ここでは、「職業意識を高めることができた」以外のすべての項目において、コース間の有意な差があった。有意差の認められる項目は、いずれも、プログレスコース、パブリックコース、ビジネスコースの順に平均値が上がっており、プログレスコースにおいて最も大学生活への影響が強いことを示している。

プログレスコースは約半年間にわたって実習を行うプロジェクトベースのインターンシップである。受講生は課題設定から計画設計、実践、評価の一連のプロジェクトに携わる。内容の充実により、その後の大学生活への影響も強いのであろう。これだけのプログラムが提供できるのは本財団の強みである。

ビジネスコース・パブリックコースにおいても、平均値が絶対的に高いというのではない。たとえば「社会人としての素養が身についた」の平均値は、パブリックコースで1.82、ビジネスコースで2.02である。この数値は、平均的には「そう思う」であることを示している。したがって、あくまで相対的に見て、ビジネスコース・パブリックコースよりもプログレスコースのほうが強い影響をもつということである。

とは言うものの、ビジネスコース・パブリックコースにプログレスコースの要素を取り入れる工夫をすることで、両コースが今後より教育効果の高いものとなる可能性が示されているといえる。例えば、実習期間を1か月などやや長めにし、内容をプロジェクト型に近いものにするなどである。これには実習先の協力が欠かせず困難が伴うものではあるが、教育プログラムとしての本財団インターンシップの独自性を発揮するために、取り組むべき課題である。

表III-4 インターンシップ参加による大学生活への影響（問14）に関するコース間比較検定

	平均値				分散分析	T検定		
	ビジネスコース	パブリックコース	プログレスコース	全体		ビジネス・パブリック	ビジネス・プログレス	パブリック・プログレス
職業意識を高めることができた	1.70	1.56	1.62	1.66				
社会人としての素養が身に付いた	2.02	1.82	1.80	1.96	*		*	
コミュニケーション能力が身についた	2.11	1.92	1.87	2.04	*	*	*	
他大学生等とネットワークができた	2.13	1.89	1.73	2.03	**	*	**	
学習意欲が高まった	2.34	2.03	1.95	2.23	**	*	**	
学生生活の指針を手に入れた	2.48	2.26	2.09	2.39	**		**	
専門知識が向上した	2.56	2.26	1.91	2.41	**	*	**	*
大学での学習に活かすことができた	2.71	2.51	2.35	2.62	**		**	
メンターを得た	2.68	2.62	2.36	2.62	**		*	

注) 平均値は、とてもそう思う=1、そう思う=2、そう思わない=3、まったくそう思わない=4とした平均値を示す。

**は1%、*は5%で有意を示す。

3) 前回調査との比較

問 14 は、前回 2007 年の調査でも同じ質問を行っている。両者の平均値を比較したのが表III-5 である。職業意識の向上や社会人としての素養を得たとする者が多いなど、おおむね全体の傾向は同一であるが、今回のほうが平均値が有意に低い、つまり、肯定的回答が有意に多い傾向がある。これは前回調査では回答選択肢の記載順番が逆であった（全くそう思わない、そう思わない、そう思う、全くそう思う、の順）ことが多少影響しているのかもしれないが、この間のプログラムの成熟によって評価が高くなつたことは十分に推察できる。ただし、「学習意欲が高まつた」と「学生生活の指針を手に入れた」は有意に肯定回答が少なくなつてゐる。このことは今後のプログラム展開において無視できない警告としてとらえる必要があろう。

表III-5 インターンシップ参加による大学生活への影響（問 14）の前回調査との比較検定

	平均値		T 検定
	2015 年調査	2007 年調査	
職業意識を高めることができた	1.66	1.74	
社会人としての素養が身に付いた	1.96	2.13	**
コミュニケーション能力が身についた	2.04	2.23	**
他大学生等とネットワークができた	2.03	2.11	
学習意欲が高まつた	2.23	2.13	*
学生生活の指針を手に入れた	2.39	2.21	**
専門知識が向上した	2.41	2.56	*
大学での学習に活かすことができた	2.62	2.77	*
メンターを得た	2.62	2.62	

注) 表III-4 と同じ

(6) インターンシップ経験の就職活動への影響

問 15. 就職活動の際、インターンシップ実習の経験がどのように役に立つたと思いますか。以下の項目のそれぞれについて答えてください。

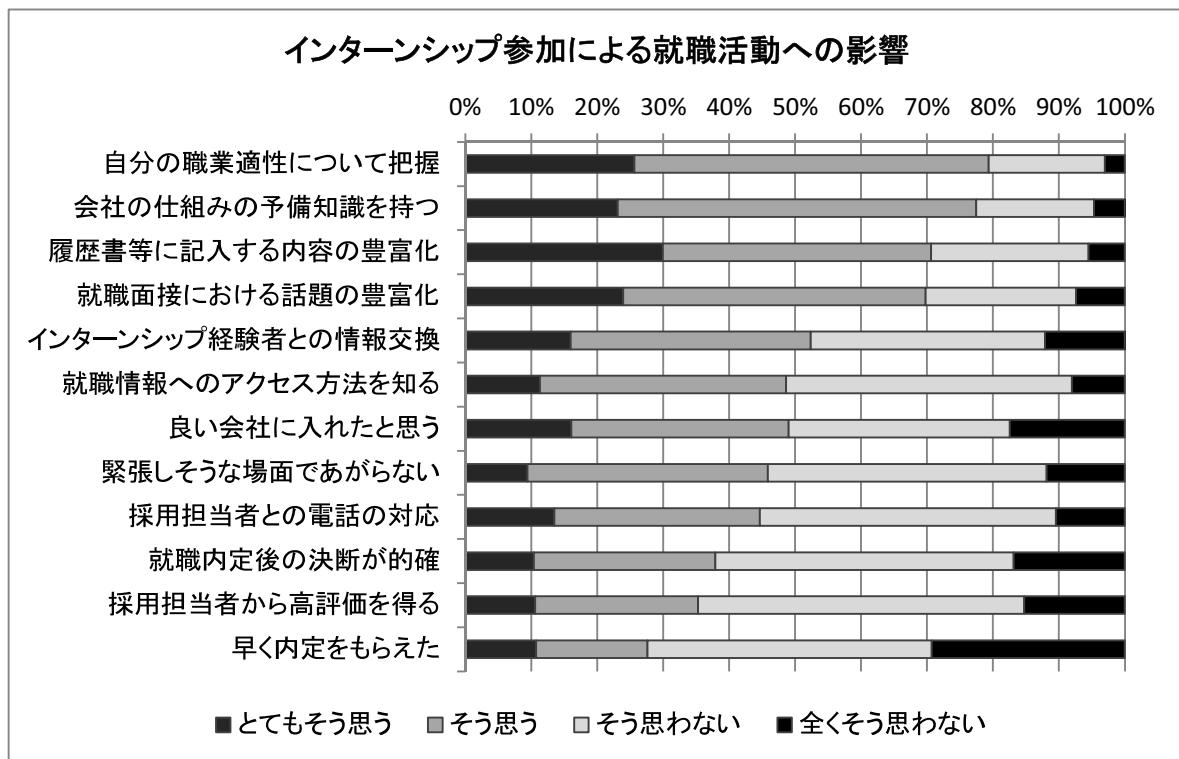
1) 影響の全体的傾向

問 15 ではインターンシップ経験が就職活動にどのように役立ったかを聞いた。図III-5 も「とてもそう思う」と「そう思う」の合計の多い項目の順番に並べている。その合計が最も多いのは「自分の職業適性について把握すること」で「会社の仕組みに関する予備知識が持てたこと」がそれに次ぎ、いずれも約 80% である。就職活動のスタートラインにおいて、自らがどのような職業適性を持つのかを把握している学生がどれほどいるか、明確な数値はないがそれほど多いとは思われない。というのは、就職活動を進めていく過程で特定の職業への向き不向きを判断していく学生が多く見受けられるからである。しかし、回答者の 8 割が適性を把握していたということは、就職活動を効率的に進めることができたことを意味する。実習によって業務の内実を知つたことも、効率性を後押ししたと推測できる。

また、履歴書の内容や就職面接においての話題が豊富になったとの評価も約 70% ある。これらも就職活動を進めるにあたっての自信となつたことがうかがえる。

しかし、こうした就職活動での有利性があるとはいえ、それが早い内定や担当者からの高評価

に繋がったとの見方は30%程度と少ない。インターンシップは経験として有意義なものではあるが、経験それのみでは十分ではない。経験によって自分が何を得たか、どのように成長したかを認識し、相手に示してはじめて真の価値となることを、この数値は表しているといえる。



図III-5 インターンシップ参加による就職活動への影響

2) コース間比較

問15においてもコース間比較を行った。表III-6はその結果である。ここでも問14と同様に、プログレスコース、パブリックコース、ビジネスコースの順に平均値が上がる傾向がある。ただし、分散分析、T検定いずれかにおいて有意に差があるのは、12項目中6項目のみである。

前項で影響が最も大きいと述べた2項目においては、コース間に有意な差はみられなかった。つまり、コースにかかわらず、職業適性や会社の仕組みを知ることは可能だということだ。一方、次に影響の大きい2項目においては、ビジネスコースとプログレスコースとに有意に差がある。プロジェクト型では実習内容も豊富であるから、履歴書記入や面接において話題に事欠かない度合いが強いのであろう。

表III-6 インターンシップ参加による就職活動への影響（問15）に関するコース間比較検定

	平均値				分散分析	T検定		
	ビジネスコース	パブリックコース	プログレスコース	全体		ビジネス-パブリック	ビジネス-プログレス	パブリック-プログレス
自分の職業適性について把握	1.98	1.89	2.00	1.97				
会社の仕組みの予備知識を持つ	2.00	2.10	2.12	2.04				

履歴書等に記入する内容豊富化	2.13	1.95	1.75	2.05	**		**	
就職面接における話題豊富化	2.23	2.03	1.81	2.14	**		**	
IS 経験者との情報交換	2.45	2.36	2.39	2.42				
就職情報へのアクセス方法知る	2.49	2.44	2.46	2.48				
良い会社に入れたと思う	2.54	2.53	2.49	2.53				
緊張しそうな場面であがらない	2.63	2.50	2.33	2.57	*		*	
採用担当者との電話の対応	2.59	2.28	2.43	2.52	*	**		
就職内定後の決断が的確	2.75	2.62	2.44	2.68			*	
採用担当者から高評価を得る	2.75	2.68	2.43	2.70			*	
早く内定をもらえた	2.90	2.95	2.90	2.91				

注) 表III-4 と同じ

3) 前回調査との比較

問15も前回調査との比較を行った。表III-7がその結果である。これも問14の大学生活への影響と同様に、おむね全体の傾向は同一である。そして、今回の方が肯定的回答が有意に多い項目が「会社の仕組みの予備知識を持つ」、「就職情報へのアクセス方法を知る」と「良い会社に入れたと思う」の3項目ある。逆に今回の方が肯定的回答が有意に少ない項目はなかった。

全体的な傾向が変わらず有意に差がある項目も3項目と少ないので、インターンシップ参加による就職活動への影響には大きな変動がなかったとみることができる。問14において大学生活への影響は一定の変化がありキャリア教育としての側面が強化されたのが分かるが、それが実際の就職活動へ直接的には影響しないということが、ここでも表れていると言えよう。

表III-7 インターンシップ参加による就職活動への影響（問15）の前回調査との比較検定

	平均値		T 検定
	2015年調査	2007年調査	
自分の職業適性について把握	1.98	2.06	
会社の仕組みの予備知識を持つ	2.04	2.21	**
履歴書等に記入する内容豊富化	2.05	2.01	
就職面接における話題豊富化	2.14	2.07	
IS 経験者との情報交換	2.44	2.55	
就職情報へのアクセス方法知る	2.48	2.73	**
良い会社に入れたと思う	2.52	2.74	**
緊張しそうな場面であがらない	2.57	2.61	
採用担当者との電話の対応	2.52	2.61	
就職内定後の決断が的確	2.69	2.71	
採用担当者から高評価を得る	2.69	2.58	
早く内定をもらえた	2.91	2.96	

注) 表III-4 と同じ

(7) インターンシップ経験の職業生活への影響

問16. インターンシップの経験は、現在の職業生活に影響を与えていると思いますか。

現在の職業生活にインターンシップが影響しているかどうか問うたところ、「はい」(影響あり)

が 57% であった。コース別にみると、とくにプログレスコースで「はい」が多く、78% のものが影響ありと答えていて極めて多い。ここまでプログレスコースにおいて大学生活や就職活動への影響が高いことが示されてきたが、ここではその傾向が明確に示されている。

表III-8 インターンシップ経験の現在の職業生活への影響（コース別）

	全体		ビジネスコース		パブリックコース		プログレスコース	
1.はい	203	56.5%	125	51.7%	37	60.7%	40	78.4%
2.いいえ	156	43.5%	117	48.3%	24	39.3%	11	21.6%
合計	359	100.0%	242	100.0%	61	100.0%	51	100.0%

注：全体にはコース不明の者も含むので、合計値が合わない。

どのような影響であるのかを自由記述から分析する。自由記述は 164 名が記入している。このなかで、悪い影響を述べたのは 3 名のみであった。表III-9 は、ここで述べられた記述内容を、就職、適性、獲得物の 3 点に分けて整理したものである。その中のいくつかを抜粋する。なお、文意を変えない範囲で文言の修正を行っているものがある。

a) 就職（企業選択）

- 就職活動の際、企業選定の役に立った。
- 自分に合った職業を選ぶことができたので、現在でもやりがいを持って働けている。
- ホテルでは小手先の技術や資格よりも、ます”人としての魅力”（特にホスピタリティ等）が圧倒的に求められ、貴重な経験だった。
- 海外と関わる仕事がしたいという目標が明確になり、現在は貿易事務の仕事をしている。

b) 適性

- 自分が向いている業界（教育）が明確になった。
- 技術者の職を見て、向いてないと分かった。
- ホテルという最上のサービスでおもてなしをする場所での経験から、肉体労働の厳しさを学び、今はオフィスワークをしている。
- 華やかに見える職業も、裏側で多くの人が努力していることを知った。

c) 獲得物

- 仕事との向き合い方を学んだ。
- ねばり強く頑張れるようになった。
- 周りの方との連携を意識できるようになった。
- 計画性、コミュニケーション力。
- 仕事に対する姿勢（自主性）。
- 理想と現実の区別ができるようになった。
- 自分が変わるきっかけになった。
- 自身の自信につながっている。

表III-9 インターンシップ経験の現在の職業生活への影響（自由記述）

悪い影響		3
良い影響		
就職（企業選択）	実習先に近い業種等で働いている	14
	就職活動、企業研究に	8
	将来の目標	6
	転職	2
適性（推測含）	適性（実習先と合っていた）決意を強くした	15
	適性（実習先と合わなかった）	6
	当時の人間関係が生きている、関わっている	9
	今の仕事（業種、職種）との比較が出来る	9
	今の仕事に（直接的に）役立っている	7
	現場体験が出来た	9
	社会、会社について学んだ。雰囲気を知ることが出来た	11
	社会人ということを学んだ	8
獲得物	教養・知識・技術面	6
	コミュニケーション・協調性	11
	マナー、プレゼン能力	10
	上記以外の能力	12
	視野・視点等、見方の変化	14
	その他	8

(8) 実習後の経過

1) 実習後の連絡

問 17. インターンシップ（ゼミ等）で知り合った人と連絡を取り合っていますか。

本財団インターンシップでは、学生を10名～20名のクラスに分け、ビジネスコース・パブリックコースでは6月・7月の3日と9月の1日の合計4日、ゼミ形式の事前・事後学習を、プログレスコースでは複数プロジェクトによるゼミを行っている。こうしたゼミで知り合った学生たちとその後も連絡を取っているということは、インターンシップで得た人間関係が重視されていることを示す。

表III-10にあるように、全体で37%、プログレスコースにおいては60%が現在も連絡を取り合っているとの回答であった。プログレスコースでは約半年のプロジェクトを実施するからそれだけ人間関係も濃密なものとなるのであろうが、同時に、インターンシップでの学びが大きいことからも人間関係を保っていこうというモチベーションが高まるのであろう。ビジネスコース・パブリックコースにおいても、3割程度は現在も連絡を取り合っている。上記のようにゼミ形式での学習機会がそれほど多くないので、この数値も相当高いと判断することができる。

なお、インターンシップ経験からの年数が短いほど連絡をより多く取っていることが予想されたが、インターンシップからの年数に読み替えが可能である入学年度による問17の回答の差は見られなかった。したがって、プログラム後、あるいは卒業後も連絡を取り合う関係になると、少なくとも数年は関係が続くとみられる。

表III-10 インターンシップで知り合った人との連絡（コース別）

	全体		ビジネスコース		パブリックコース		プログレスコース	
1.はい	136	37.4%	85	34.8%	18	29.0%	32	60.4%
2.いいえ	228	62.6%	159	65.2%	44	71.0%	21	39.6%
合計	364	100.0%	244	100.0%	62	100.0%	53	100.0%

注：全体にはコース不明の者も含むので、合計値が合わない。

2) 財団以外のインターンシップ経験

問18. 大学コンソーシアム京都以外のインターンシップを経験しましたか。

本財団以外のインターンシップを経験したものは15%と少ない。なかでもパブリックコースは5%である。パブリックコース受講者の多くが公務員志望であり、地方公共団体でのインターンシップが比較的少ないとによるものであろう。

一方、企業においてはインターンシップが非常に盛んになってきている。いわゆる「one day」つまり1日だけの企業体験や、数日程度のインターンシップを経験する学生が多い。それにもかかわらず他のインターンシップを経験したものが少ないと本財団のインターンシップを経験することでインターンシップに期待するものが高まり、他のそうした短期インターンシップ参加の意義を見出しにくくなつたのかもしれない。

表III-11 大学コンソーシアム京都以外のインターンシップ経験（コース別）

	全体		ビジネスコース		パブリックコース		プログレスコース	
1.はい	56	15.2%	42	17.0%	3	4.8%	10	18.2%
2.いいえ	313	84.8%	205	83.0%	59	95.2%	45	81.8%
合計	369	100.0%	247	100.0%	62	100.0%	55	100.0%

注：全体にはコース不明の者も含むので、合計値が合わない。

3) 現所属先での受け入れ

問19. 社会人の方は、所属先で大学生のインターンシップを受け入れていますか。

本財団のインターンシップ・プログラムを安定的に運営していくために、受け入れ先の開拓は欠かせない。現在の所属先の32%がインターンシップ受け入れを行っている。このアンケートでは回答者の所属先は問うていないので、ここで受け入れを行っていると回答された企業等が、現在の本プログラムの受け入れ先となっているかどうかは分からぬ。

しかし、別途尋ねている今後の財団からの連絡についての意向において、前述のとおり124名が連絡可としているので、これらの回答者の中にも所属先でインターンシップ受け入れを行っているものは一定数存在すると思われる。連絡可とした回答者にアプローチすることで、今後の新規受け入れ先開拓につないでいくことは可能であろう。

表III-12 所属先でのインターンシップ受け入れ（コース別）

	全体		ビジネスコース		パブリックコース		プログレスコース	
1.はい	110	32.0%	73	31.9%	17	28.3%	18	36.0%
2.いいえ	157	45.6%	101	44.1%	32	53.3%	22	44.0%
3.分からない	77	22.4%	55	24.0%	11	18.3%	10	20.0%

合計	344	100.0%	229	100.0%	60	100.0%	50	100.0%
----	-----	--------	-----	--------	----	--------	----	--------

注：全体にはコース不明の者も含むので、合計値が合わない。

(9) 自由記述

1) 後輩へのアドバイス

問 20. インターンシップに参加しようと考えている後輩にアドバイスがあれば記載してください。

後輩へのアドバイスとして、243名（66%）が自由記述に回答した。その多くが参加を勧めるものである。また具体的な実習先の選択方法、インターンシップの心構え、実習中のアドバイスや、より一般的なアドバイスも多くの記述があった。以下、ごく一部であるが紹介する。

a) 参加を勧めるもの

- ・ 経験を増やす事は自分自身を知る機会が増え、自分を見つめ直すことが出来ます。こういう機会を自ら作る事は、就職に限らず、今後の生活すべてにとても良い影響を与えてくれるはずです。是非挑戦してみて下さい！
- ・ 視野を広げるためにもインターンシップには参加すべきと思います。大学生活内だけでの知見など狭いものです。
- ・ 就職のためだけでなく、人生の経験として、インターンシップを楽しんでください。何事も一生懸命に取り組むことで、楽しさを見出せると思います。
- ・ 悩んでいるなら、まずやってみれば良いと思います。インターンシップでなければできないことが多いです。
- ・ インターンシップはこれから的人生のきっかけとなるものが多くあるので、その中から自分に合ったものを、興味になるものを選んで楽しんでほしい。
- ・ 就職活動の方向性を決めるのに大きく影響しました。すでに将来を決めている人はもちろん、まだどのように進みたいかわからない人も、このような企画に参加することが進みたい道を見つける大きなきっかけになると思います。
- ・ 就職先として考えている業種でも、そうでない業種でも、インターンシップに参加することで新たに見えてくるものがあると思うので、ぜひ参加をおすすめします。

b) 実習先の選択方法

- ・ ただ参加するだけでは意味はありません。自発的に行動すること、そのためには、”何故インターンシップに参加するのか（参加して何がしたいのか、自分はどうなりたいのか）”理由を明確にした上で、参加先をしっかりと吟味して決めてください。
- ・ インターンシップを役に立たないと言う人もいますが、それは一人一人がどう取り組むかによって変わってくると思います。できれば、普段は体験できないような業種、職種を選んでみてはいかがですか？何か違うものが得られるかもしれません。
- ・ 自分の興味のあるもの、もしくは全然向いてなさそうなものの、両方に参加して自分の幅を広げてほしい。案外、好みと向き不向きは別なものも多いので、職業選択がしやすくなると思う。

c) インターンシップの心構え

- 自分が実際に仕事をするイメージを持って、自分はどのようになっていきたいか、どのようなことができるかを真剣に考えながら参加すると、とてもためになる時間になると思います。
- 積極的に参加してほしい。受け身ではなく、自分自身で課題を設定する等。
- 何故参加するのか、参加することで何を得たいのかを明確にすべき。受け身ではなく参加期間中は自ら行動を起こすこと。
- 本気でやれば必ず得るものがあります（インターンシップに限らず全てにおいて）。インターンシップで本気を出してやってみて下さい。例え、失敗してもその「本気の失敗」には価値があります。学生時間は短い。だからこそ、本気でいこう！！

d) 実習中のアドバイス

- 何でもやってみる。たくさん質問する。少しでも多く吸収する気で臨む。記録に残す。
- 前もってインターンシップ先の情報を調べておくと、社員ともコミュニケーションも取りやすく、仕事もしやすくなると思います。それから結構体力がいるので、体調管理を大切にしてください。
- インターンシップ先で出会った方の話はしっかりと聞いた方がいいと思います。自分より長い職業人生を歩んで来られている分、今後の進路を決める際にきっと参考になる点が多いと思います。

e) より一般的なアドバイス

- 1日1日を大切にすると、出会う人、起こる出来事すべてが将来につながって自分を成長させてくれます。チャレンジしてみてください。
- 学生時代は結果的に経験が活かせても活かせなくてもチャレンジすることは大事ですよ。
- やってみようと思うことは大切。思いたら即行動が大切だと思います。
- 目的志向を大切に。周囲のレベルが高いところに身を置こう。

表III-13 インターンシップ参加の後輩へのアドバイス（自由記述）

参加を勧めるもの	179
うち、条件付きで参加をすすめるもの	(19)
うち、実習先を考えず、まずは参加をすすめるもの	(23)
実習先の選択方法	10
インターンシップの心構え	40
実習中のアドバイス	18
より一般的なアドバイス	24

2) 意見・感想

問21. インターンシップに関して、改めて意見・感想があれば自由に記入してください。

最後に、インターンシップに関する意見・感想を求めた。ここにも151名（41%）の記述があった。ここでは受講に対する礼が圧倒的に多く、あらためて、インターンシップ経験の意義の高

さが示された。一方、プログラムへの改善要求および提案も見られた。今後の参考にすべき点でもあるので、内容を掲載しておく。

全体的に問16および問20と重複した記述も多く見られたので、表III-14にはこれらも含めて全体として掲載している。以下、その一部を抜粋する。ただし、プラス面の詳細は割愛する。

a) 実習先の改善

- ・ 受け入れの現場で、インターンシップ生をどう学ばせるのか等の意思統一をはかっていたい。インターン担当者と管理職だけが熱意がある、という状況では意味がないと思います。
- ・ 実際に職場を見て仕事をしたのではないので、インターンシップという感じはしなかった。放置された部分もかなりある。
- ・ ほとんど現場実習がなく大学の講義のような内容だったので、もう少し実務に近い体験ができればもっと良い経験になると思います。
- ・ 実習内容をもっと具体的に提示してあげるべきだと思う。
- ・ 参加時のスケジュールよりも $+ \alpha$ で多くの時間が必要でした。もう少し事前に詳細なスケジュールを知ってから参加したかったというのが当時の印象です。

b) コンソーシアム（事務・コーディネーター・授業）の改善

- ・ インターンシップ先の実施内容を事前に調査しておくことをおすすめします。
- ・ この講座修了生の話（現在どのような社会に入り、仕事をしているのか）があってもいいのではないかと思います。
- ・ もっと学生にわかりやすくインターンシップの内容説明や広報をしてほしい。
- ・ 大学コンソーシアムのインターンシップ制度は有益であるので、もっと広報活動に力を入れたらよいと思う。大学コンソーシアムのインターンを知っている人が周りに少なかったので。

c) 実習先（職種・人数）の拡大

- ・ 採用に直結するインターンより、学生に対し、社会のマナーや考え方の違いが体験できるインターンの方が自ら考える機会が増えると思う。もっと幅を広げてほしい。
- ・ 受入れ先の企業・団体がもっと増えればよいと思います。また、ゼミは少人数制がよいと思います。
- ・ 中小企業でのインターンも充実させてみてはどうでしょうか。京都・大阪の中小企業を中心。
- ・ 文系の人が主にインターンシップに参加しているイメージがありました。今後、理系の大学にも参加できる機会があれば嬉しいです。

d) プログラムへの礼

- ・ インターンシップを通じて、なかなか普段できない経験をさせていただきました。あれから数年たっていますが、今でもよく思い出します。ありがとうございました。

- ・ インターンシップの際は研修や報告会などお世話になりました。おかげ様で就職活動もうまくいき、めぐまれた職場で出産後も総合職として働き続けています。
- ・ 大学コンソーシアム京都には、大学のインターンシップになかった団体が数多く参加されているので、自分のやりたいことが見つけられて良かったです。現在専門職になれて大変感謝しています。

e) インターンシップを継続する要望

- ・ これから魅力あるインターンを提供して、就職後の GAP を極力なくせるような環境を築いていただきたいと思います。
- ・ 企業とのミスマッチは今もたくさん起こっています。インターンシップは企業にも学生にもチャンスを与えてくれます。若者達のより未来や、企業・地域社会の更なる発展のために、これからも御尽力ください。

f) 自分の反省点

- ・ 参加したゼミ生達と、「しっかりしたつながり」を持っていれば「人脈」を作ることが出来たと思います。そこが反省点です。
- ・ インターンシップに参加して経験することはできたけど、実際の就職活動にはあまり活かせていないことに気付いた。せっかくの経験をもっと活かす努力が必要だと思った。

表III-14 インターンシップに関する意見（再掲を含む）

改善を求めるもの	
実習先の改善	19
コンソーシアム（事務・コーディネーター・授業）の改善	10
実習先（職種・人数）の拡大	8
プログラムへの札	42
インターンシップを継続する要望	12
自分の反省点	5
プラス面の記載	
他大学生・受入先との交流や出会い	42
適性が分かった（合っていなかった）	9
適性が分かった（良かった、合っていた）	17
事前事後学習	13
就職活動（業界分析）に役立つ	54
自己分析・成長・変化	24
その後（今）に役立つ	20
現在の仕事・職場で	32
人生の経験として	25
現場・社会を知れたこと	18
視野・視点等、見方の変化	11
インターンシップを早めに経験して（しておけば）よかったです	6

4. 考察

今回のアンケート調査研究によって、次のことが明らかになった。

① 総じて本財団インターンシップ・プログラムへの評価は高い。これは前回調査でも同じであるが、再度の調査をすることで、それがより確実となった。

② 大学生活を通して、実習生は「前に踏み出す力」を大きく成長させている。一方、「考え方」と「チームで働く力」はやや成長度が低い。

③ 大学生活を通して成長した能力に影響した経験として、インターンシップが上位にある。学習関連の能力にも正課授業とともに影響している。

④ プログラムを受講したことによって、社会人性が大きく向上している。とくにプログレスコースにおいて大きい。

⑤ 就職活動においても、自分の職業適性や会社の内的側面を知っていることを強みとしている。しかし、その経験によって就職活動に直接的な強みを発揮したとするものは比較的少ない。

以上から、本プログラムが『「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成』を目的とした教育プログラム』として機能していることが示された。とくに、長期インターンシップであるプログレスコースが、実習生のその後の大学生活に大きく影響していることが示された。今後、教育プログラムとしての特徴とインターラッジの強みを活かしてプログラムを推進するとともに、プログレスコースの成果を取り入れること、改善点の指摘を真摯に受け止めることで、よりよいプログラムとなるであろう。

5. 今後の研究課題

今後の研究課題としては、① 本調査データのさらなる分析、② 調査結果を活用したインターンシップ・プログラムの改善・開発、の2点があげられる。

1点目は、データの有効活用の視点である。今回得られたデータの分析は、現時点では基本的にone-way frequencyに基づいており、いくつかの変数においてコース間の差の検定、クロス表分析、および前回調査との比較を行ったのみである。前回調査においてはインターンシップの影響の因子分析等を行っており、今回も同様の分析を行うことは今後の課題となる。また、豊富な自由回答を、回答者属性との関連で分析するなど、より有効な活用も可能である。

2点目は、調査結果をインターンシップにどのように還元するかである。総括で述べたように、教育プログラムとしての本財団のインターンシップの強みを活かしつつ、プログレスコースの「PBL」(Problem/Project Based Learning; 問題発見/課題解決型学習)型要素を、ビジネスコース・パブリックコースにも取り入れていくことが求められる。そうしたプログラムの改善・開発をすることで、この調査研究が真の成果を発揮することになる。

これらをひきつづき問題意識として持っていくことがなによりも重要である。

ⁱ 『今後の展開についての提言書—インターンシップ研究会報告書—』(『産官学地域連携による人材育成プログラム報告書』と合冊)、立命館大学(編集協力 財団法人大学コンソーシアム・京都)、2009年3月

参考資料1. アンケート用紙

大学コンソーシアム京都が提供した インターンシップに関するアンケート																					
<p>このアンケートは、大学コンソーシアム京都が提供したインターンシップ・プログラムに参加した皆様の プログラムに対する感想を改めてお伺いするものです。ご回答いただいた内容は、今後のインターンシップ ・プログラムの改善に役立てる目的で使用し、それ以外の目的では使用しません。なお、アンケートの ご回答内容について、個人を特定できない状態で集計した統計情報をお聞きすることあります。 以下、「インターンシップ」は特定の用途がない限り、大学コンソーシアム京都が提供したインターンシッ クを指して、ご回答ください。また、覚えていない・回答しづらかった場合は記入を省略です。</p> <p>公募財團法人 大学コンソーシアム京都 インターナショナル事務担当 Tel: 075-352-9106 HP: http://www.consortium.or.jp/project/intern FB: http://www.facebook.com/consortium.kyoto.intern</p>																					
<p>問1. 性別に○を付けてください。 1. 男性 2. 女性</p> <p>問2. 2015年4月1日時点の年齢を記載してください。 歳</p> <p>問3. インターンシップ受講当時に在籍していた大学(院)・学部・学科・入学年度を記載してください。 大学・大学院_____ 学部_____ 学科_____ 入学年度()</p> <p>問4. インターンシップ先(企業・団体名等)を記載してください。</p> <p>問5. 受講したコースに○を付けてください。 1. ビジネスコース(企業等において約2週間程度の実習を行う短期実習型コース) 2. パラリックコース(行政機関、NPO等において約2週間程度の実習を行う短期実習型コース) 3. プロジェクトコース(プロジェクトの企画・計画から実施までの実習を行う長期プロジェクト型コース) 4. 覚えてない</p> <p>問6. 現在の身分に○を付けてください。 1. 在宅勤務 2. 正社員 3. 公務員 4. 製造社員 5. 大学生・大学院生 6. 派遣社員 7. フリーター 8. 求職中 9. その他()</p> <p>問7. 現在までに、就職活動をしたことがありますか。○を付けてください。 1. はい 2. いいえ →「いいえ」を選ばれた方は、扭田を記載してください。 就職していない方は問10へ、活動せず就職した方は問10に記入してください。</p> <p>問8. 就職活動をした企業等の業種について、○を付けてください。 1. インターンシップ先を含めた同業種 2. インターンシップ先は除いた同業種 3. インターンシップ先とは異なる業種 4. 未記入</p> <p>問9. 就職活動をして、内定を得た企業等の業種について、○を付けてください。 1. インターンシップ先を含めた同業種 2. インターンシップ先は除いた同業種 3. インターンシップ先とは異なる業種 4. 未記入</p>																					
<p>問10. 大学(大学院)卒業(又は中途退)直後の進路に○を付けてください。 1. 就職をしていない 2. 1回以上する 3. 大学(大学院)卒業(又は中途退)後、すぐ就職した。 4. 大学(大学院)卒業(又は中途退)後、_____年_____ヶ月、経過してから就職した。</p> <p>問11. 大学(大学院)卒業(又は中途退)後の、最初の就職先について教えてください。</p> <p>II-1. 最初の就職先と、理由について、当てはまるものに○を付けてください 1. 第一希望で就職 2. 第一希望と同じ就職軸組 3. 第一希望と同じ就職 4. 第一希望と同じ職種 5. 条件・職種とも第一希望と異なる</p> <p>II-2. 最初の就職先での身分に○を付けてください 1. 合格者 2. 正社員 3. 製造社員 4. 派遣社員 5. その他()</p> <p>問12. 就職経験について、当てはまるものに○を付けてください。 1. 大学(大学院)卒業(又は中途退)後の最初の就職先で今も勤務している。 2. 大学(大学院)卒業(又は中途退)後の最初の就職先を辞めている。 →その時の就職理由を記載してください。 3. 就職した方は、その回数を記載してください。 回 4. 最後の就職先について、勤務年数を記載してください。 年 月</p> <p>問13. 大学生の間で、下記の項目を併せてすることが出来ましたか。当てはまるものに○を付けてください。 さとう、「よく伸びた」または「少し伸びた」を選んだ方は、伸び方にあたって最も影響した経験を ひとつ、そのほかに影響した経験をいくつでも、□から選んで、AからDの記号を()に記入して ください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A. 正規授業</td> <td style="width: 25%;">B. 既外活動</td> <td style="width: 25%;">C. 学術</td> <td style="width: 25%;">D. インターンシップ</td> </tr> <tr> <td>E. 就職活動</td> <td>F. ボランティア</td> <td>G. アルバイト</td> <td>H. その他()</td> </tr> </table> <p>問14. ①基礎体力 最も影響した経験 影響した経験 ②創造性 最も影響した経験 影響した経験 1. よく伸びた 2. 少し伸びた 3. 变わらない 4. 落ちた 1. よく伸びた 2. 少し伸びた 3. 变わらない 4. 落ちた</p> <p>③学習に対する意欲 最も影響した経験 影響した経験 ④批判性 最も影響した経験 影響した経験 1. よく伸びた 2. 少し伸びた 3. 变わらない 4. 落ちた 1. よく伸びた 2. 少し伸びた 3. 变わらない 4. 落ちた</p> <p>⑤自己主性 最も影響した経験 影響した経験 ⑥リーダーシップ 最も影響した経験 影響した経験 1. よく伸びた 2. 少し伸びた 3. 变わらない 4. 落ちた 1. よく伸びた 2. 少し伸びた 3. 变わらない 4. 落ちた</p> <p>問15. 就職活動の際、インターンシップ実習の経験がどのように役に立ったと思いますか。①から⑩のそれぞれについて、一つ選んで○を付けてください。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">①会社の仕組みに関する予備知識が得たこと</td> <td style="width: 25%;">②自分の職業適性について把握すること</td> <td style="width: 25%;">③就職情報にアクセスする方法を知っていたこと</td> <td style="width: 25%;">④インターンシップ経験者と就職に関する情報交換</td> </tr> <tr> <td>⑤就職活動等に記入する内容が豊富になったこと</td> <td>⑥就職相談会と連絡する際の発言の対応</td> <td>⑦就職面接における話題の豊富化</td> <td>⑧就用担当者から就職説明が得られたこと</td> </tr> <tr> <td>⑨就職の内容が得られた後の決断が的確にできた</td> <td>⑩就職してうなづけた後もあらざるに対応できた</td> <td>⑪就職の学年に対して早く内定をもらえた</td> <td>⑫他の学生に比べて、良い会社に入れたと思う</td> </tr> </table> <p>問16. インターンシップの経験は、現在の就業生活に影響を与えると思いますか。 1. はい 2. いいえ →「いいえ」を選ばれた方は具体的に記載してください。</p> <p>問17. インターンシップ(セミ等)で知り合った人と連絡を取り合っていますか。 1. はい 2. いいえ</p> <p>問18. 大学コンソーシアム京都以外のインターンシップを経験しましたか。 1. はい 2. いいえ</p> <p>問19. 社会人の方は、所属先で大学生のインターンシップを受け入れていますか。 1. はい 2. いいえ 3. 分からない</p> <p>問20. インターンシップに参加しようと考えている後にアドバイスがあれば記載してください。</p> <p>問21. インターンシップに関して、改めて意見・感想があれば自由に記入してください。</p> <p>以上でアンケートは終了です。ご協力ありがとうございました。回封の封面上にご返送ください。</p>		A. 正規授業	B. 既外活動	C. 学術	D. インターンシップ	E. 就職活動	F. ボランティア	G. アルバイト	H. その他()	①会社の仕組みに関する予備知識が得たこと	②自分の職業適性について把握すること	③就職情報にアクセスする方法を知っていたこと	④インターンシップ経験者と就職に関する情報交換	⑤就職活動等に記入する内容が豊富になったこと	⑥就職相談会と連絡する際の発言の対応	⑦就職面接における話題の豊富化	⑧就用担当者から就職説明が得られたこと	⑨就職の内容が得られた後の決断が的確にできた	⑩就職してうなづけた後もあらざるに対応できた	⑪就職の学年に対して早く内定をもらえた	⑫他の学生に比べて、良い会社に入れたと思う
A. 正規授業	B. 既外活動	C. 学術	D. インターンシップ																		
E. 就職活動	F. ボランティア	G. アルバイト	H. その他()																		
①会社の仕組みに関する予備知識が得たこと	②自分の職業適性について把握すること	③就職情報にアクセスする方法を知っていたこと	④インターンシップ経験者と就職に関する情報交換																		
⑤就職活動等に記入する内容が豊富になったこと	⑥就職相談会と連絡する際の発言の対応	⑦就職面接における話題の豊富化	⑧就用担当者から就職説明が得られたこと																		
⑨就職の内容が得られた後の決断が的確にできた	⑩就職してうなづけた後もあらざるに対応できた	⑪就職の学年に対して早く内定をもらえた	⑫他の学生に比べて、良い会社に入れたと思う																		

参考資料2. アンケート回答集計結果

以下の表では、回答実数と有効回答合計に対する割合（斜体）を示している。ただし、回答者の属性と実績に関する問1から問12までは不明を含む全回答者に対する割合を掲載している。問13以降の質問は原則として質問紙のままを掲載している。

問1 性別

	回答数	割合
男性	94	25.3%
女性	277	74.7%
合計回答数	371	100.0%

問2 年齢（2015年4月1日時点満年齢）

	回答数	割合
22歳	44	11.9%
23歳	53	14.3%
24歳	36	9.7%
25歳	51	13.7%
26歳	37	10.0%
27歳	41	11.1%
28歳	35	9.4%
29歳	44	11.9%
30歳	19	5.1%
31歳	5	1.3%
32歳	2	0.5%
33歳	1	0.3%
36歳	1	0.3%
不明	2	0.5%
合計回答数	371	100.0%

問3 インターンシップ受講時の在籍大学と入学年度

	回答数	割合
龍谷大学	73	19.7%
同志社大学	70	18.9%
京都女子大学	30	8.1%
同志社女子大学	25	6.7%
大谷大学	18	4.9%
立命館大学	17	4.6%
京都産業大学	15	4.0%
京都府立大学	12	3.2%
京都文教大学	12	3.2%
佛教大学	12	3.2%
成安造形大学	10	2.7%
京都工芸繊維大学	9	2.4%

京都学園大学	8	2.2%
京都教育大学	6	1.6%
京都外国語大学	5	1.3%
京都精華大学	5	1.3%
京都橘大学	5	1.3%
京都光華女子大学	4	1.1%
京都ノートルダム女子大学	4	1.1%
花園大学	4	1.1%
京都文教短期大学	3	0.8%
平安女学院大学	3	0.8%
京都大学大学院	2	0.5%
京都工芸繊維大学大学院	2	0.5%
京都造形芸術大学	2	0.5%
大阪国際大学	2	0.5%
京都府立大学大学院	1	0.3%
京都嵯峨芸術大学	1	0.3%
京都女子短期大学	1	0.3%
立命館大学大学院	1	0.3%
滋賀大学	1	0.3%
長浜バイオ大学	1	0.3%
大阪市立大学	1	0.3%
大阪外国語大学	1	0.3%
大阪樟蔭女子大学	1	0.3%
関西大学	1	0.3%
奈良女子大学	1	0.3%
不明	2	0.5%
合計回答数	371	100.0%

	回答数	割合
2002年	3	0.8%
2003年	6	1.6%
2004年	42	11.3%
2005年	25	6.7%
2006年	35	9.4%
2007年	37	10.0%
2008年	61	16.4%
2009年	24	6.5%
2010年	52	14.0%
2011年	50	13.5%
不明	36	9.7%
合計回答数	371	100.0%

問4 実習先（省略）

問 5 受講コース (問4のインターンシップ先の回答がある場合はコースの確認・修正を行った。
そのため、無回答あるいは「覚えていない」51名のうち、最終的に不明は5名となった。また、ビジネスコースとプログレスコース、パブリックコースとプログレスコースの両方を選択したものが各1名いたが、いずれもプログレスコースとして集計した。)

	回答数	割合
ビジネスコース	249	67.1%
パブリックコース	62	16.7%
プログレスコース	55	14.8%
不明	5	1.3%
合計回答数	371	100.0%

問 6 現在の身分 (「正社員」には教員、団体職員を、「大学生・大学院生」には各種学校学生を、「フリーター」にはパート、非常勤講師を、それぞれ含む。)

	回答数	割合
自営業	5	1.3%
正社員	234	63.1%
公務員	58	15.6%
契約社員	19	5.1%
大学生・大学院生	16	4.3%
派遣社員	4	1.1%
フリーター	13	3.5%
求職中	6	1.6%
その他	16	4.3%
合計回答数	371	100.0%

問 7 現在までの就職活動経験

	回答数	割合
はい	351	94.6%
いいえ	19	5.1%
不明	1	0.3%
合計回答数	371	100.0%

問 8 就職活動をした企業等の業種 (問7で「はい」と答えた者の回答のみを集計した。なお、「同業種」と「異なる業種」の両方を選択などの複数回答は「業種は様々」とした。)

	回答数	割合
インターンシップ先を含めた同業種	74	21.1%
インターンシップ先は除いた同業種	22	6.3%
インターンシップ先とは異なる業種	102	29.1%
業種は様々	150	42.7%
不明	3	0.9%
合計回答数	351	100.0%

問 9 就職活動をして内定を得た企業等の業種（問 7 で「はい」と答えた者の回答のみを集計した。なお、「同業種」と「異なる業種」の両方を選択などの複数回答は「業種は様々」とした。）

	回答数	割合
インターンシップ先を含めた同業種	63	17.9%
インターンシップ先は除いた同業種	32	9.1%
インターンシップ先とは異なる業種	178	50.7%
業種は様々	67	19.1%
不明	11	3.1%
合計回答数	351	100.0%

問 10 大学（大学院）卒業（又は中退等）直後の進路

	回答数	割合
就職をしていない	18	4.9%
大学(大学院)卒業（又は中退等）後、すぐ就職した	323	87.1%
大学(大学院)卒業（又は中退等）後、〇年経過してから就職した	15	4.0%
不明	15	4.0%
合計回答数	371	100.0%

問 11-1 大学（大学院）卒業（又は中退等）後の最初の就職先と志望との関係（問 10 で「就職した」と答えた者の回答のみを集計した。）

	回答数	割合
第一志望に就職	131	37.1%
第一志望と同じ業種職種	58	16.4%
第一志望と同じ業種	29	8.2%
第一志望と同じ職種	25	7.1%
業種・職種とも第一志望と異なる	96	27.2%
不明	14	4.0%
合計回答数	353	100.0%

問 11-2 大学（大学院）卒業（又は中退等）後の最初の就職先での身分（問 10 で「就職した」と答えた者の回答のみを集計した。）

	回答数	割合
自営業	2	0.6%
正社員	292	82.7%
契約社員	26	7.4%
派遣社員	2	0.6%
その他	18	5.1%
不明	13	3.7%
合計回答数	353	100.0%

問 12-1 転職経験 (問 10 で「就職した」と答えた者の回答のみを集計した。)

	回答数	割合
大学(大学院)卒業（又は中退等）後の最初の就職先で今も勤務している	239	67.7%
大学(大学院)卒業（又は中退等）後の最初の就職先を辞めている	88	24.9%
不明	26	7.4%
合計回答数	353	100.0%

問 12-2 転職回数 (問 11-1 で「最初の就職先を辞めている」と答えた者の回答のみを集計した。)

	回答数	割合
1回	46	52.3%
2回	18	20.5%
3回	5	5.7%
4回	1	1.1%
5回	1	1.1%
不明	17	19.3%
合計回答数	88	100.0%

問 13 大学生活の間で、下記の項目を伸ばすことが出来ましたか。さらに、「よく伸びた」または「少し伸びた」を選んだ方は、伸ばすにあたって最も影響した経験をひとつ、そのほかに影響した経験をいくつでも A～H から選んでください。

	よく伸びた	少し伸びた	変わらない	落ちた	有効回答数	不明	合計
①基礎学力	88 25.7%	153 44.7%	89 26.0%	12 3.5%	342 100.0%	29	371
②学習に対する意欲	120 35.3%	123 36.2%	82 24.1%	15 4.4%	340 100.0%	31	371
③自主性	156 45.7%	137 40.2%	46 13.5%	2 0.6%	341 100.0%	30	371
④協調性	137 40.2%	127 37.2%	71 20.8%	6 1.8%	341 100.0%	30	371
⑤独創性	46 13.5%	114 33.5%	176 51.8%	4 1.2%	340 100.0%	31	371
⑥リーダーシップ	51 14.8%	117 34.0%	167 48.5%	9 2.6%	344 100.0%	27	371
⑦コミュニケーション力	144 42.7%	141 41.8%	49 14.5%	3 0.9%	337 100.0%	34	371
⑧人的ネットワーク構築力	100 29.6%	130 38.5%	103 30.5%	5 1.5%	338 100.0%	33	371
⑨プレゼンテーション能力	88 26.1%	149 44.2%	99 29.4%	1 0.3%	337 100.0%	34	371
⑩ディスカッション能力	80 23.6%	159 46.9%	99 29.2%	1 0.3%	339 100.0%	32	371
⑪ストレス対応力	88 26.0%	98 29.0%	142 42.0%	10 3.0%	338 100.0%	33	371

⑫実行力	110 32.5%	145 42.9%	80 23.7%	3 0.9%	338 100.0%	33	371
⑬計画力	72 21.3%	128 37.9%	133 39.3%	5 1.5%	338 100.0%	33	371
⑭規律性	52 15.4%	96 28.4%	184 54.4%	6 1.8%	338 100.0%	33	371
⑮発信力	53 15.6%	99 29.2%	182 53.7%	5 1.5%	339 100.0%	32	371
⑯課題発見力	82 24.3%	148 43.9%	105 31.2%	2 0.6%	337 100.0%	34	371

上記の力を伸ばすにあたって、最も影響を与えた経験（上記質問でよく伸びた」または「少し伸びた」と答えた者の回答のみ集計した。）

	A 正課授業	B 課外活動	C 留学	D インターンシップ	E 就職活動	F ボランティア	G アルバイト	H その他
①基礎学力	201	4	6	10	3	0	5	5
②学習に対する意欲	147	17	11	34	9	6	5	8
③自主性	38	52	15	49	40	19	58	11
④協調性	37	71	5	31	9	10	77	12
⑤独創性	37	38	11	16	10	6	25	14
⑥リーダーシップ	22	46	4	27	9	9	35	10
⑦コミュニケーション力	27	56	18	41	26	14	78	11
⑧人的ネットワーク構築力	24	68	8	41	19	9	38	12
⑨プレゼンテーション能力	106	20	7	57	23	2	6	9
⑩ディスカッション能力	86	22	6	51	47	4	3	9
⑪ストレス対応力	13	15	5	18	38	5	68	12
⑫実行力	31	43	21	50	42	16	28	11
⑬計画力	43	29	11	29	38	9	23	8
⑭規律性	19	21	1	31	16	7	35	9
⑮発信力	29	45	7	24	17	5	11	6
⑯課題発見力	60	26	7	59	31	8	22	9
合計回答数	920	573	143	568	377	129	517	156

上記の力を伸ばすにあたって、影響を与えたその他の経験（複数回答。上記質問でよく伸びた」または「少し伸びた」と答えた者の回答のみ集計した。）

	A 正課授業	B 課外活動	C 留学	D インターンシップ	E 就職活動	F ボランティア	G アルバイト	H その他
①基礎学力	14	29	17	23	17	12	28	7
②学習に対する意欲	34	32	17	45	22	11	20	8
③自主性	27	24	14	90	50	25	59	7
④協調性	21	27	8	61	23	18	70	9
⑤独創性	17	22	8	21	18	9	19	5
⑥リーダーシップ	8	17	7	35	13	6	33	5

⑦コミュニケーション力	20	39	13	91	44	15	78	8
⑧人的ネットワーク構築力	18	29	12	55	25	13	53	6
⑨プレゼンテーション能力	38	23	4	50	33	7	13	2
⑩ディスカッション能力	36	20	4	58	45	7	17	2
⑪ストレス対応力	18	19	10	22	33	6	39	4
⑫実行力	25	22	8	71	36	13	50	6
⑬計画力	26	19	4	40	43	0	31	6
⑭規律性	11	8	2	37	25	7	36	2
⑮発信力	18	15	5	28	21	9	12	4
⑯課題発見力	27	25	8	58	34	9	35	6
合計回答数	358	370	141	785	482	167	593	87

問 14 インターンシップの参加によって、その後の大学生活にどのような影響がありましたか。

	とても そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	有効 回答数	不明	合計
① 大学での学習（卒業論文など）に活かすことができた	34 9.2%	127 34.4%	148 40.1%	60 16.3%	369 100.0%	2	371
② 学習意欲が高まった	57 15.4%	190 51.5%	97 26.3%	25 6.8%	369 100.0%	2	371
③ 学生ながらにして職業意識を高めることができた	163 44.2%	173 46.9%	25 6.8%	8 2.2%	369 100.0%	2	371
④ 社会人としての素養が身に付いた	101 27.4%	190 51.6%	67 18.2%	10 2.7%	368 100.0%	3	371
⑤ コミュニケーション能力が身についた	75 20.3%	212 57.5%	71 19.2%	11 3.0%	369 100.0%	2	371
⑥ 専門知識が向上した	54 14.7%	140 38.0%	142 38.6%	32 8.7%	368 100.0%	3	371
⑦ その後の学生生活の指針を手に入れた	58 15.7%	142 38.5%	135 36.6%	34 9.2%	369 100.0%	2	371
⑧ 他大学生、実習生、受入れ先等とネットワークができた	114 30.9%	151 40.9%	81 22.0%	23 6.2%	369 100.0%	2	371
⑨ 就職活動や将来に関する相談ができるメンターを得た	47 12.7%	102 27.6%	162 43.9%	58 15.7%	369 100.0%	2	371

問 15 就職活動の際、インターンシップ実習の経験がどのように役に立ったと思いますか。

	とても そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない	有効 回答数	不明	合計
① 会社の仕組みに関する予備知識が持てたこと	84 23.1%	198 54.4%	65 17.9%	17 4.7%	364 100.0%	7	371
② 自分の職業適性について把握すること	93 25.6%	195 53.7%	64 17.6%	11 3.0%	363 100.0%	8	371
③ 就職情報にアクセスする方法を知っていたこと	41 11.3%	135 37.3%	157 43.4%	29 8.0%	362 100.0%	9	371

④ インターンシップ経験者と就職に関する情報交換	58 16.0%	132 36.4%	129 35.5%	44 12.1%	363 100.0%	8	371
⑤ 履歴書等に記入する内容が豊富になったこと	109 29.9%	148 40.7%	87 23.9%	20 5.5%	364 100.0%	7	371
⑥ 採用担当者と連絡する際の電話の対応	49 13.5%	113 31.1%	163 44.9%	38 10.5%	363 100.0%	8	371
⑦ 就職面接における話題の豊富化	87 23.9%	167 45.9%	83 22.8%	27 7.4%	364 100.0%	7	371
⑧ 採用担当者から高評価が得られたこと	38 10.6%	89 24.7%	178 49.4%	55 15.3%	360 100.0%	11	371
⑨ 就職の内定が得られた後の決断が的確にできた	37 10.4%	98 27.5%	161 45.2%	60 16.9%	356 100.0%	15	371
⑩ 緊張しそうな場面でもあがらずに対処できた	34 9.4%	132 36.5%	153 42.3%	43 11.9%	362 100.0%	9	371
⑪ 他の学生に対して早く内定をもらえた	38 10.7%	60 16.9%	153 43.1%	104 29.3%	355 100.0%	16	371
⑫ 他の学生に比べて、良い会社に入れたと思う	57 16.1%	117 33.0%	119 33.5%	62 17.5%	355 100.0%	16	371

問 16 インターンシップの経験は、現在の職業生活に影響を与えていると思いますか

	回答数	割合
はい	203	56.5%
いいえ	156	43.5%
有効回答数	359	100.0%
無回答数	12	
合計	371	

問 17 インターンシップ（ゼミ等）で知り合った人と連絡を取り合っていますか

	回答数	割合
はい	136	37.4%
いいえ	228	62.6%
合計回答数	364	100.0%
無回答数	7	
合計	371	

問 18 大学コンソーシアム京都以外のインターンシップを経験しましたか

	回答数	割合
はい	56	15.2%
いいえ	313	84.8%
合計回答数	369	100.0%
無回答数	2	
合計	371	

問 19 社会人の方は、所属先で大学生のインターンシップを受け入れていますか

	回答数	割合
はい	110	32.0%
いいえ	157	45.6%
分からぬ	77	22.4%
合計回答数	344	100.0%
無回答数	27	
合計	371	